

第1学年 国語科学習指導案

日時 平成20年10月16日(木) 5校時
児童 男子16名 女子9名 計25名
指導者 小石 美和子

- 1 単元名 こえに だして よもう
- 2 教材名 くじらぐも (光村図書 1年下)
- 3 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに、1年上「はなのみち」「おむすびころりん」「大きなかぶ」の3つの物語教材を学習してきた。文章や挿絵を見て、場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことや語や文としてのまとまり、内容のまとまりを考えながら、言葉の意味が分かるように、また、繰り返しの言葉や文章のリズムに注意しながら声に出して読むことを学習してきた。様子をより詳しく想像するために、動作化をしたり、登場人物の気持ちを考え吹き出しに書いたりする学習も行ってきた。

これらの学習を通して、児童達は文章や挿絵を手がかりに、場面や登場人物の様子を思い描けるようになってきているとともに、読書に親しみ、進んで読書をしようとする姿が見られるようになってきている。しかし、想像力や挿絵をよく見る注意があるものの、想像が膨らみすぎて、文章から離れていってしまう傾向があるので、学習の途中で必ず文章にもどりながら指導していく必要がある。声を出すことがとても好きな、話し好きの児童達である。ひらがなの読み書きについては、ひととおりの学習済みではあるが、自信のない児童が何人かいる。朝学習や6月から始めた家庭音読により、音読を好んで取り組む児童は多いが、拾い読みや分かれ読み段階の児童もいて、挿絵から想像したことを叙述と結びつけることが困難な児童もいる。しかし、教材文のどこに書かれているのか一生懸命探したり、吹き出しに書こうとしたりする意欲がある。字は一字一字丁寧に書こうとする児童は多いが、助詞や拗音、促音などを正しく表記できなかつたり、文章を正しく音読することができなかつたりする児童がいて、自分の考えをうまく伝えられないこともある。発言は意欲的で、友達の考えと比べて聞こうとする様子も少しずつ見られるようになってきた。

また、本校の国語科アンケート結果によると、「国語がとても好き」と答えた児童は10人、「まあまあ好き」と答えた児童が7人で国語を好む児童が多く見られる。好きな理由としては、「文章を読むのが好きだから」「いろいろ勉強するのが好きだから」「字を書くのが好きだから」などがあげられた。しかし、「あまり好きではない」「きらい」と答えた児童が学級の約三分の一の7人見られた。理由としては、「長い文章を読むのがきらいだから」「字を書くのがきらいだから」であった。したがって、習得の段階で文を読むことに対する抵抗感を減らし、楽しみながら読み取っていきよう読む目的を明確にし、活用する段階では習得の段階で学習してきたことを生かしながら言語活動を進めていきたい。

(2) 教材について

小学校学習指導要領における低学年「C読むこと」の領域における目標は、「時間的な順序や事柄などの順序などを考えながら内容の大体を読むこと」である。また、指導内容は、「ア、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」「イ、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」「ウ、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」「エ、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」「オ、文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」「カ、楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。」である。

本単元は、「こえにだしてよもう」で、登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむことをねらいとしている。

本教材は、体育の授業という身近な現実の中から幻想の世界に入り、想像の中で十分に遊んだ後にまた、現実の世界に戻る物語である。自分たちと同じ1年生の話であることから親近感をもち、子どもたちが憧れるであろう「雲に乗ってみたい」「雲の上から下の景色をみてみたい」などの思いを、作中の人物と一体になって読むことのできるおもしろさがある。作品は、5つの場面から構成されている。冒頭の2文で場面が明確に設定され、大空にくじらぐもが登場し、これから起こることへの興味をわきたたせてくれる。そして、くじらぐもと子どもたちとの呼応が始まり心が通じ合い、子どもたちが雲に飛び乗ることにより場面は大空へと変わる。大空を旅し、やがてお昼の時間となり楽しさを残しながら夢のような出来事が終わり、場面は再び地上へと戻る。

本単元の学習を通して、文章と挿絵から想像を楽しみ、登場人物に同化し、呼応する会話や繰り返しの表現のおもしろさなどを感じながら、文章表現の特長を生かして場面に合った読み方を工夫させたい。

(3) 指導にあたって

本教材の指導にあたっては、習得の段階で場面の様子について想像を広げて読むために、作品を読み、その世界にたっぷりと浸らせていきたい。また、活用の段階では、この教材で学習してきたことを生かして、自分の見つけた雲や会ってみたい雲を想像して手紙を書いて発表会を開き、聞き手が発表者の話から想像することができるようにさせていきたい。

つかむ段階では、まず初めに雲に関する絵本などを紹介してイメージを膨らませ、「くじらぐも」の全文を読み、おもしろいところや楽しかったところをたくさん発表させ意欲をもたせたい。そして、今後の学習の見通しをしっかりと意識させたい。たしかめる段階では、くじらぐもと子どもたちの会話や行動が書いてある文章にサイドラインを引かせ、そこからくじらぐもや子どもたちの様子や気持ちを想像させていく。言語事項である主語・述語「～が～する。」「～は～する。」を手がかりにくじらぐもや子どもたちの様子を探させていきたい。さらに、挿絵とともに照らし合わせたり動作化を取り入れたりしながら深く読み取らせ、吹き出しを付けた学習シートに、想像したことを作中の「子どもたち」になったつもりで書かせ、音読の工夫へと広げさせていきたい。また、一斉読や友達と交互に読み合いをしたり、役割読みをしたりしながら想像したことを音読表現につなげていく。最後に、ひろめる段階で学習してきたことを生かして、自分が想像した雲や会ってみたい雲に手紙を書き発表会を開く。一人一人が想像を広げ、たっぷりとその世界に浸り、楽しみながら読み進められるよう、また、音読ができるよう指導していきたい。

4 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ◎登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむ。(国語への関心・意欲・態度)
- 体操の時間や雲の上の様子などについて、想像を広げながら読む。(読むこと・ウ)
- ◎語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読む。(読むこと・エ)
- 雲と話したいことを考えて書く。(書くこと・ア)

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむ。	体操の時間や雲の上の様子などについて、想像を広げながら読む。(ウ) 語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読む。(エ)	雲と話したいことを考えて書く。(ア)

5 指導と評価の計画（指導時数 11時間）

段階	時間	おもな学習活動	評価規準（おおむね満足できる状況）
一次 つ か む	3	1 全文を読み、学習のめあてをもつ。 (1) ・今までに見た雲について発表し合う。 ・雲に関する絵本などを紹介しイメージを膨らませる。 ・「くじらぐも」の範読を聞き、あらすじをとらえる。 (2) ・全文を読み、好きな場面やおもしろいところを発表し合う。 ・学習計画を立てる。 (3) 新出漢字、片仮名の読み方と筆順言葉の使い方を確認する。	関 雲に興味を示し、大まかなあらすじを押さえている。〔観察・発言〕 関 物語に興味をもち、感想を発表している。〔観察・発言〕 関 一画一画丁寧に書き、覚えようとしている。〔観察〕
二次 た し か め る	5 本時	2 全文を読み、子どもたちとくじらぐもの様子を読み取ったり、想像したりする。 (1) 子どもたちとくじらぐもの出会いを読み取る。 (2) 子どもたちが、くじらぐもに飛び乗ろうとする様子を読み取る。 (3) 空を旅する子どもたちの様子を想像する。 (4) くじらぐもと別れるときの様子を読み取る。 (5) くじらぐもに手紙を書く。	読 くじらぐもの出会いを読み取っている。〔観察・発言・音読〕 読 くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちと、それを応援するくじらぐもの様子を読み取っている。〔観察・発言・音読〕 読 くじらぐもに乗ったつもりで、子どもたちの気持ちを想像し読み取っている。〔ワークシート・発言・音読〕 読 くじらぐもと別れるときの子どもたちの様子を読み取っている。〔観察・発言・音読〕 書 「くじらぐも」を読んで思ったことを、くじらぐもにあてて手紙を書いている。〔カード・観察〕
三次 ひ ろ め る	3	3 自分の見つけた雲や会ってみたい雲などを絵に描いたり、想像したりして手紙を書く。 (1) 自分の見つけた雲や会ってみたい雲と話したいことを考える。 (2) 自分が見つけた雲や会ってみたい雲を描き、手紙を書く。 (3) 作品発表会「くものてらん会」を開く。	関 いろいろな雲を想像し、話したいことを考えている。〔観察・発言〕 書 自分が決めた雲に手紙を書いている。〔カード・観察〕 関 自分の作品をみんなの前で発表している。〔観察・発表〕

6 本時の指導

(1) 本時の目標

【読むこと】くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちと、それを応援するくじらぐもの言葉や文に着目し、子どもたちの雲のくじらに飛び乗ろうとする気持ちを読み取ることができる。

(2) 授業仮説

○仮説1 『音読や書く活動を通して語句や表現に着目した指導をする』に関わって

くじらぐもに飛び乗ろうとしている子どもたちと、それを応援するくじらぐもの様子が表れている言葉や文を見つけ、そこから想像を広げ音読することによって、確かに読み取ることができるであろう。

(3) 展開

段階	学習内容とおもな学習活動	教師の支援 仮説に関わる主な支援 評 評価
つかむ 5分	<p>1 学習のめあてを確認し、前時の学習を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">くじらぐものことばをきいて、子どもたちはどんなことをおもったでしょう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもに飛び乗ろうと子どもたちが張り切っていることを掲示を使い簡単に想起させる。 本時の学習課題を一斉読し、つかませる。 挿絵を掲示し、子どもたちの様子を簡単に話し合わせる。 <p>評 学習課題をおさえ、子どもたちの様子に着目しているか。(発言、態度)</p>
た し か め る 3.5分	<p>3 三の学習場面を音読する。</p> <p>4 子どもたちやくじらぐもの様子が表れている言葉や文を探し、その時の子どもたちの気持ちを考える。</p> <p>(1) 子どもたちやくじらぐもの様子が表れている言葉や文を探し、サイドラインを引く。</p> <p>(2) 取り上げた言葉や文から子どもたちやくじらぐもの様子や気持ちを読み取る。</p> <p>5 子どもたちの様子や気持ちが表れるように、音読の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達同士のペア音読 指名音読 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくり音読し、どの子もしっかり声が出せるようにさせる。 <p>仮説1に関わる主な支援</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">子どもたちの気持ちを想像させるために、子どもたちやくじらぐもの様子が表れている言葉や文を主述の関係を押さえながら見つけさせ、子どもたちの気持ちの高まりをしっかりと押さえさせて音読させる。</div> <p>評</p> <p><概ね満足できる状況B></p> <p>子どもたちやくじらぐもの様子が表れている言葉や文にサイドラインを引き、子どもたちの気持ちを考えようとしている。</p> <p>○Cの子への支援</p> <p>子どもたちやくじらぐもが言ったことに着目させる。(観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読の視点をあたえてそれぞれ音読できるようにする。
ま と め る 5 分	<p>6 本時の学習のまとめをする。(学習したことを生かし、音読する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> 役割音読 <p>7 次時の予告をきく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達の音読でよかったところを確認し、役割音読に生かせるようにさせる。 <p>評 学習したことを意識し音読できたか。(観察・自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 次時は、今日の学習を生かし、空を旅する子どもたちの様子を想像し音読をすることを知らせる。

くじらぐぐも

なかがわ りえこ

めあて

くじらぐぐものことばをきいて、子どもたちはどんなことをおもったでしょう。

みんなは、手をつないで、まるいわになると
ちからをひとつにあわせて

くじらぐぐものにろう。

「天までとどけ、一、二、三。」

でも、やっと三十センチ

がんばるぞ。
まだまだやれる。
こんどこそは！

もつとたかく。
もつとたかく。

「天までとどけ、一、二、三。」

こんどは五十センチ

よし、ぜったいのるぞ。

「天までとどけ、一、二、三。」

挿絵

そのとき

<p style="text-align: center;">五</p>	<p style="text-align: center;">四</p>
<p style="text-align: center;">子どもたち と別れ、空へ 帰っていくく くじらぐも</p>	<p style="text-align: center;">空を旅する 子どもたちと くじらぐも</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>心が通い合った子どもたちと先生との対比</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>子どもたちと先生</p> <p>くじらぐも との対比</p> <p>「おや、もう おひるだ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生が、おそろくと、 ・ みんなが手をふったとき、四じかんののおわりのチャイムがなりだしました。 ・ 「おや、おそろいな。」 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>くじらは、かえろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ くじらは、まわれ右をしました。 ・ しぼらくいくと・・・ (遠くまで旅していた。) ・ 「おや、おそろいな。」 ・ くじらは、まだ、げんきよく、あおい空のなかへかえっていききました。 </div>	<p>子どもたちと先生、くじらぐも との対比</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>みんなは、うたをうたいました。</p> <p>(楽しい・喜ぶ)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>くじらは、元気いっぱいすすんでいききました。</p> <p>(元気・力強き)</p> </div> <p>☆倒置法</p> <p>くじらは、あおい、あおい空のなかを、げんきいっぱい、すすんでいきました。うみのほうへ、むらのほうへ、まちのほうへ。くじらぐもが、元気よく、力強く空を泳ぐ様子を強調している。</p> <p>どこまでも続く大空での楽しい旅</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ げんきよく、あおい空のなかへ ○ ジャングルジム ○ チャイム ○ くじらは、くじらぐもが、かえっていききました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あおい、あおい空 (晴れ渡っている様子) ・ どこまでもくじらぐも、果てしなく広がっている様子 ○ くじらは、あおいあおい空のなかを、げんきいっぱい、すすんでいきました。うみのほうへ、むらのほうへ、まちのほうへ。